

# まちなかキャンパス 「城下ステーション」オープン



■まちなかキャンパス事業とは  
森田学長が掲げる「美しい学都」実現のための拠点として、昨年11月、岡山大学地域総合研究センターが開所しました。本センターが行う活動の一つが、行政、企業、NPO、市民等との対話を通じて、学生や教職員がまちづくりなど地域の課題を考え実践する「まちなかキャンパス事業」です。  
これは、本学が魅力ある岡山の創造に貢献するとともに、学生らが経験を積むことで課題解決の実践力をつけることなどを目的としています。

■城下ステーションの設置  
まちなかキャンパス事業は、実際にキャンパスの外に出て、地域の方々と交流や対話をするために、③景観が良い、④まちづくり事業を行うNPOとの連携も期待できる等の理由からです。また、まちなかキャンパス事業以外にも、ゼミやサークル活動で利用したり、留学生と地域との交流拠点としたりすることも可能です。

この場所を選定したのは、①市内中心部、②歴史・文化施設に近い、③景観が良い、④まちづくり事業を行うNPOとの連携も期待できる等の理由からです。また、まちなかキャンパス事業以外にも、ゼミやサークル活動で利用したり、留学生と地域との交流拠点としたりすることも可能です。



**岡山大学まちなかキャンパス城下ステーション**  
住所：岡山市北区石関町2-1（県立美術館向かい）  
開館時間：9:00～18:00（土日・祝日除く）  
担当：岡山大学地域総合研究センター（086-251-8491）

## ダイヤ工業株式会社



高齢化社会が進展する中、腰や膝などの痛みを抱える患者様は多い。快適な生活を支えるのに欠かせないのが、腰を補強するコルセットや膝を衝撃から守るサポーターだ。こうした医療用品を主力商品として製造・販売するダイヤ工業（岡山市南区古新田）は、患者様一人一人に寄り添った製品開発に取り組んでいる。

1963（昭和38）年、輸出用のゴムサンダル製造会社として創業。その後、国内向けに小物の革製品を作り始め、培ったミシン技術を生かし医療用品製造に参入した。代表的な商品であるコルセット一つとっても、症状の違いにより商品は約40種にも及ぶ。サポーターやテーピングテープなど、現在展開している製品は300を数え、主に接骨院などで販売している。

製品開発で大切にしているのは、「下着感覚」で体になじむこと。長年にわたり接骨院の先生と相談しながら、力のない人でも自分で簡単に身につけられるよう開発・改良を進めてきた。

### 患者様に寄り添った医療用品開発

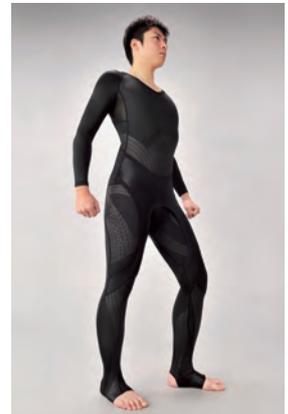
2010年には、全身の骨格筋の動きを手助けすることで、関節にかかる負担や腰痛を和らげる効果がある全身サポーター「DARWIN（ダーウィン）」を開発。これまで体の部位ごとに開発してきた製品の機能を組み込んだ、同社の集大成だ。

「積極進取」を経営方針に掲げる通り、従来とは異なるアプローチにも積極的。岡山大学大学院自然科学研究科の則次俊郎教授との共同事業では、空気圧で湾曲する「人工筋」を使い、手先に障がいがある人が自力でペンやペットボトルを持つことを可能にする「パワーアシストグローブ」を開発した。

「オーダーメイド感覚」で快適さの提供を」と意気込む同社。厳しい競争が続く医療用品業界で、とことん顧客志向を貫いた製品開発に終わりは無い。



▲膝サポーター「ファンクションニー0A」



▲全身サポーター「DARWIN（ダーウィン）」



▲パワーアシストグローブ



コルセット「プロハード」▼

ダイヤ工業株式会社【CSセンター】：岡山市南区古新田 1117-1  
TEL：086-282-1245 FAX：086-282-1246 <http://www.daiyak.co.jp>

広告

リサイクル適性 (A)  
この印刷物は、印刷用の紙でリサイクルできます。

R100  
古紙配合率100%再生紙を使用しています



<http://www.okayama-u.ac.jp/>